NPO法人
性と子どものエンパワメント関西
NEWS LETTER
第28号
2009.7.27

目次

田上時子のエッセイ　無為自然 …… 1
特集　理事懇談会　～「わたし」の人権を意識する～…… 2～3
活動報告　総会報告／田上時子がCCJ理事に就任／おたより…… 4
暴力防止の4つの力…… 4
エルコラム⑥エル保健室・ティーンズコーナー…… 5
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会助成事業 …… 6
講座インフォメーション …… 6
リレーエッセイ　岡田和子／松下咲也子 …… 7
会員の紹介・入会のおさそい …… 8
編集後記…… 8

田上時子のエッセイ
無為自然

全国のCAP（Child Assault Prevention=子どもへの暴力防止プログラム）活動のトレーニングセンターであるNPO法人　CAPセンター・JAPAN（CCJ）の理事に6年振りに戻ることになった。一度引退を決めた役割に戻るのは、なかなか骨がいるものだが、老子の説く「無為（為すがまま）」に従うことにした。

1995年、当時、一桁の人数にしか満たない全国の同志の熱意が結集し、東京・大阪・広島で、CAPプログラムを提供するCAPスペシャリストの養成講座を開催することになり、当NPO法人の前身であるビデオドックが大阪を受持つことになった。

1995年は波乱の年であった。1月に阪神・淡路大震災、3月に東京で地下鉄サリン事件、9月に沖縄で米兵女子暴行事件が起きた。またこの年は、いじめによる自殺者が初めて複数新聞報道されて、子どもの暴力が社会問題として関心を集めた年でもあった。

そのためか、CAPスペシャリスト養成講座は定員を大きく上回る応募があり、急遽、追加養成講座を企画した。

CAPスペシャリスト養成講座を主催した責任上、スペシャリストの活躍の場を広げることを自らの使命として、CAPの普及に努めた。メディア戦略も積極的に行って、あらゆる取材を受けた。CAPの知名度が上がるにつれて依頼も増え、1996年からは年間200回のCAPおとなワーク（おとなに対する啓発講座）を数年続けた。

体力・気力ともに充実していた時期でもあったし過信もしていたが、1999年の秋に意識障害を二度起こした。それを機にCAP活動から身を引くことを決心した。次世代にバトンを渡す意味もあった。

CAPプログラムは1978年にアメリカのレイプ救援運動の中から、子どもへの暴力防止を予防教育として進めようと生まれ、実績を積んできた教育プログラムである。

現在、CAPプログラムは、世界16カ国で実施され、これまで500万人以上の子どもたちが参加しているという。

日本では、これまでの14年間の活動を経て、広く北海道から沖縄まですべての都道府県にCAPグループが設立され、今現在は約150団体がCAPプログラムを提供している。今年度からは、CCJの他に、北部を中心とするトレーニングセンター、JAPAN CAP Training & Action(J-CAPTA)が設立された。

日本のCAP活動も14年目に突入するが、大きな節目を迎えている。

いじめ、子どもの虐待、性暴力、誘拐等々、どれをとっても増加傾向にある中で、CCJの理事としての役割を精一杯努めたいと考えている。